

平成24年度「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果概要（公立中学校・中等教育学校前期課程）

1. 生徒の英語力や学習到達目標について ≪「提言1」に関すること≫

中学校第3学年に所属している生徒のうち英検3級以上を取得している生徒は16.2%。取得はしていないが英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒は15.0%で、合わせると31.2%となり、平成23年度調査結果より5.7ポイント増加。

2. 英語を使用する機会の増加について ≪「提言3」に関すること≫

- (1) 中学校における英語の授業で活用するために雇用等しているALTの総数は8,505人。ALT総数に占める割合は、JETプログラムによるALTが30.1%と最も多く、次いで、請負契約によるALTが27.0%。JETプログラム以外で自治体が独自に直接雇用しているALTは20.1%、派遣契約によるALTは18.5%となっている。
- (2) 中学校で英語の授業を担当している教員のうち正規の外国人教員は7人、外国人非常勤講師は17人。

3. 英語担当教員の英語力・指導力、学校・地域における戦略的な英語教育改善について ≪「提言4」に関すること≫

英語担当教員のうち、英検準1級以上又はTOEFLのPBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上又はTOEIC730点以上を取得している者は、全体の27.7%。当該試験の受験経験のある者は、全体の75.4%。